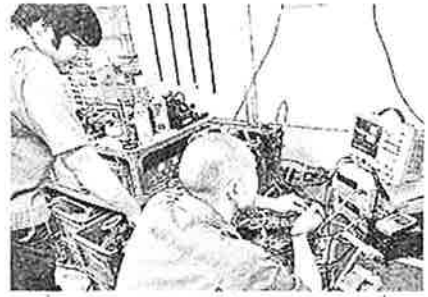


東京近郊にも開発拠点

ポニー電機



現在は群馬県藤岡市の本社で開発に取り組んでいる

コイルなどの電源部品を手掛けるポニー電機(群馬県藤岡市、長井正博社長)は東京近郊に開発拠点を新設する。同社は太陽光発電などの再生可能エネルギーと蓄電池を組み合わせたマイクログリッド(小規模分散型電源)用の部品やシステムの開発に力を入れており、事業拡大のためには技術者を確保しやすい東京近郊に拠点を設ける必要があると判断した。

分散型電源部品・システム 技術者の採用しやすく

2013年3月までに
新拠点を設置する。技術

系の社員が常駐し、製品開発に取り組む。当初は5〜6人で運営する予定だが、採用活動を積極的に行い、その後3年間で20〜30人程度の規模に広

大する予定。現在は本社が研究開発の機能を担っているが、新拠点をあわせて2カ所で開発に取り組む。建物は新築せず、既存物件に人居する。現在、東京都内のほか、川崎市や横浜市など神奈川県を中心に物件を探している。賃貸の形で人居する

ため、投資額は設備を含め3000万〜5000万円程度で済むという。同社は2007年に大手電機メーカーなどから開放電器やコンバーターなど電力を制御するパワーエレクトロニクスのシステムの開発を受託する事業に参入した。

普及などを背景にパワーエレクトロニクス関連の市場は急速に拡大しており、同事業を強化する上でも人材の確保が急務となっていた。東京近郊に拠点を設置することで、顧客との折衝をスムーズにする狙いもある。

現在、同社のパワーエレクトロニクス関連の受託開発事業の売上高を年間5億円程度まで引き上げる計画を立てている。託開発事業の売上高は1億円程度。今後、電気自動車(EV)用の充電器用のシステム開発など新規分野にも参入し、15年3月をめどに、パワーエレクトロニクス関連の